

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、令和5年4月～6月期の業況実績と、令和5年7月～9月期の見通しについて、管内510先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸いです。

※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 地区内の業況D.I.推移	2
3. 一般業種の業況	
(1) 製造業	3
(2) 卸売業	4
(3) 小売業	5
(4) サービス業	6
(5) 建設業	7
(6) 不動産業	8
4. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	9
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	10
(3) 能登地区の漆器業	11
(4) 能登地区の木材業	12
(5) 能登地区の建具業	13
(6) 能登地区の織布業	14
(7) 能登地区の繊維・雑品業	15
(8) 能登地区の観光業	16
5. 経済指標	17～18
6. 特別調査	
中小企業の将来を見据えた 事業承継について	19

(注) 令和5年7月～9月を今期、令和5年4月～6月を前期、令和5年10月～12月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製 造 業	150	136	90.7	29.4
卸 売 業	24	19	79.2	4.1
小 売 業	145	131	90.3	28.3
サービス業	89	83	93.3	17.9
建 設 業	81	77	95.1	16.6
不 動 産 業	21	17	81.0	3.7
合 計	510	463	90.8	100.0

◆◆◆ 概 況 ◆◆◆

《 2023 年 7 月～9 月》

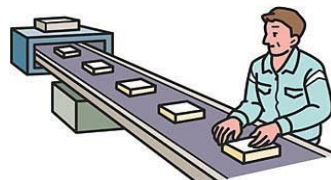
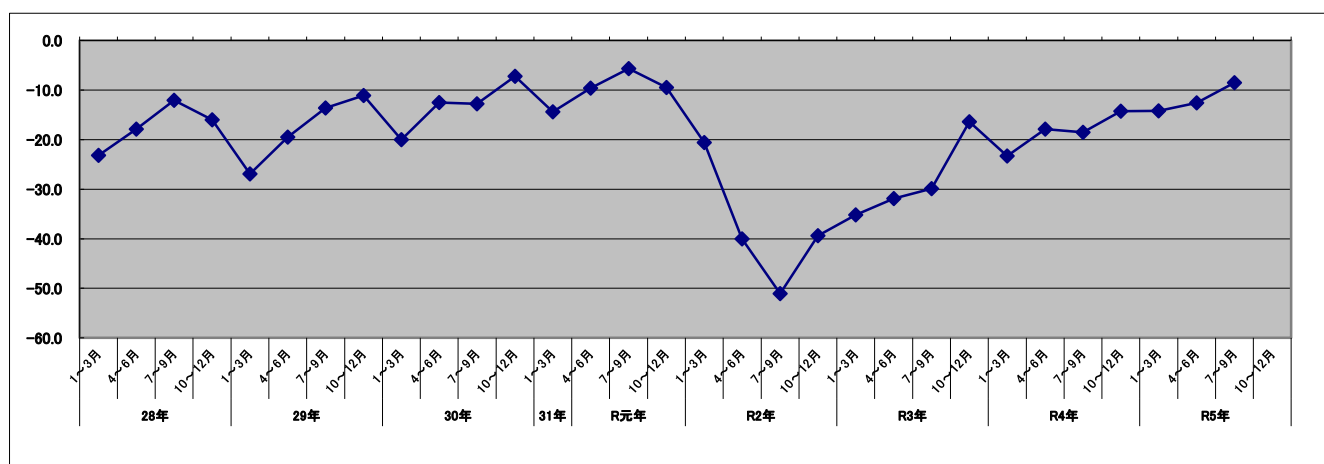
新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが 2 類から 5 類に変わり、日常の基本的感染対策や、新型コロナの陽性者及び濃厚接触者の外出自粛が求められなくなり、ノーマスクで歩く人の姿が増え始めた。また入国制限の解除が行われたことで国内外の観光客や国内の人流も増えてきている。当金庫地区内では、キリコ（切子灯籠を乗せた山車）を担ぎ、火がついた大松明の周りを練り歩く能登町のあばれ祭り、輪島塗のキリコを担ぎ市内を巡行する輪島の輪島大祭を始め、各地で祭礼が執り行われている。また、珠洲では奥能登国際芸術祭 2023 が 9 月 23 日(土)から 51 日間開催され、第 3 回となる今年は 14 の国と地域から 59 組のアーティストが参加し、第 1 回目からの常設展示を含めて珠洲市内にあわせて 61 点の作品が展開されている。今期は夏の時期であることから様々なイベントが催され、多数の観光客が見込まれる。

こうした中で、当金庫営業地区の今期業況 D.I. は、△ 8.5（前期△ 12.6）とやや改善した。地区内全般では、小売業、サービス業、建設業は改善し、卸売業、不動産業はほぼ横這いで、製造業はやや悪化した。地場産業では電子部品・半導体製造業、観光業が大幅に改善し、建具業が改善、繊維・雑品業が横這いで、織布業もほぼ横這い、木材業が悪化し、縫製業と漆器業も大幅に悪化した。各業界の主な動向では、電子部品・半導体製造業は半導体の供給不足が解消されてきており、それによって自動車生産が回復基調を保っていること、木材業では木材価格がコロナ禍以前と同水準まで落ち着いてきたことが挙げられる。またコロナの位置付けが 2 類から 5 類に下がり、消費者の警戒感が和らいだことで外出が増加し、サービス業にとっては追い風の状況となっている。しかし物価の上昇は続いており、中でも食料品の値上がり幅は大きい。今後物価の上昇ペースは来年にかけて緩んでいくものと見られているものの、上昇が止まるわけではないため、消費者にも生産者にとっても厳しい状況が続くと予想され、注視が必要である。

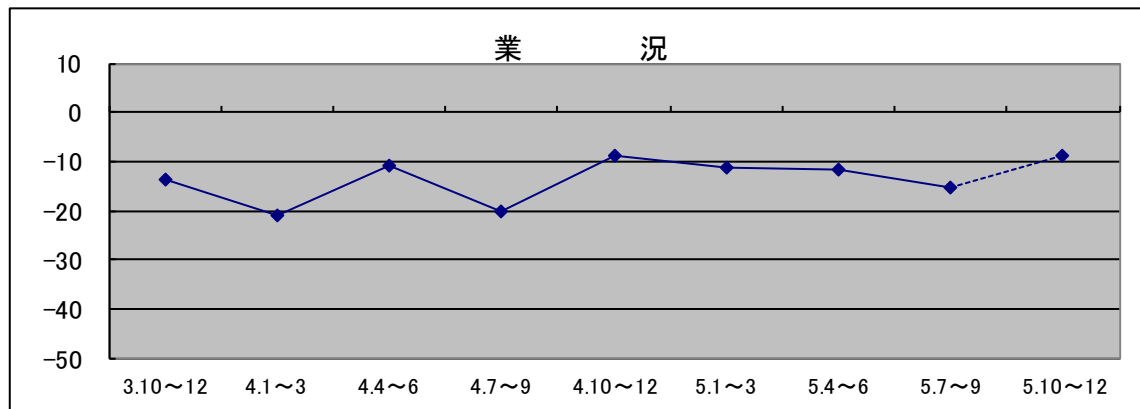
いよいよ令和 5 年 10 月 1 日よりインボイス制度が開始される。インボイスとは『販売先に対し、税率と税額を正確に伝えるために、従来の区分記載請求書に必要事項を追記した請求書』を指し、インボイス制度（適格請求書等保存方式）とは『複数税率に対応した消費税の仕入税額控除の方式』のことで、本制度導入後は、消費税を納付する際に、仕入先等が発行するインボイスがないと仕入税額控除が受けられなくなる。既に毎年欠かさず消費税を納税している事業者への影響は少ないと考えられるが、今まで消費税の納税義務が免除されていた課税期間における課税売上高が 1,000 万円以下の小さな企業や個人事業主への影響は大きい。この仕入税額控除を受けるための適格請求書発行事業者になるためには、納税の義務が生じる。10 月以降 3 年間は仕入税額の「80%控除」、その後 3 年間は「50%控除」といった緩和措置はあるが、取引先や同業者と話し合い、課税事業者になった場合の負担を確認して、今後の方針を決める必要なども出てくるだろう。年度毎に課税事業者と免税事業者を選択する事業者も出てくると思われるが、どちらを選択するかは非常に難しい問題である。

地区内の業況D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
H28年	1～3月	△ 23.2	R2年	1～3月	△ 20.6
	4～6月	△ 17.9		4～6月	△ 40.0
	7～9月	△ 12.1		7～9月	△ 51.1
	10～12月	△ 16.0		10～12月	△ 39.4
H29年	1～3月	△ 26.9	R3年	1～3月	△ 35.2
	4～6月	△ 19.5		4～6月	△ 31.9
	7～9月	△ 13.6		7～9月	△ 29.9
	10～12月	△ 11.1		10～12月	△ 16.4
H30年	1～3月	△ 20.0	R4年	1～3月	△ 23.3
	4～6月	△ 12.5		4～6月	△ 17.9
	7～9月	△ 12.8		7～9月	△ 18.5
	10～12月	△ 7.2		10～12月	△ 14.3
H31年	1～3月	△ 14.4	R5年	1～3月	△ 14.2
R元年	4～6月	△ 9.6		4～6月	△ 12.6
	7～9月	△ 5.7		7～9月	△ 8.5
	10～12月	△ 9.5		10～12月	



製造業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）の業況D.I.はやや悪化し、△15.4（前期△11.7）となった。他全ての項目についてもやや悪化を示している。業況は落ち着いてきてはいるが、未だ先行きは不透明である。

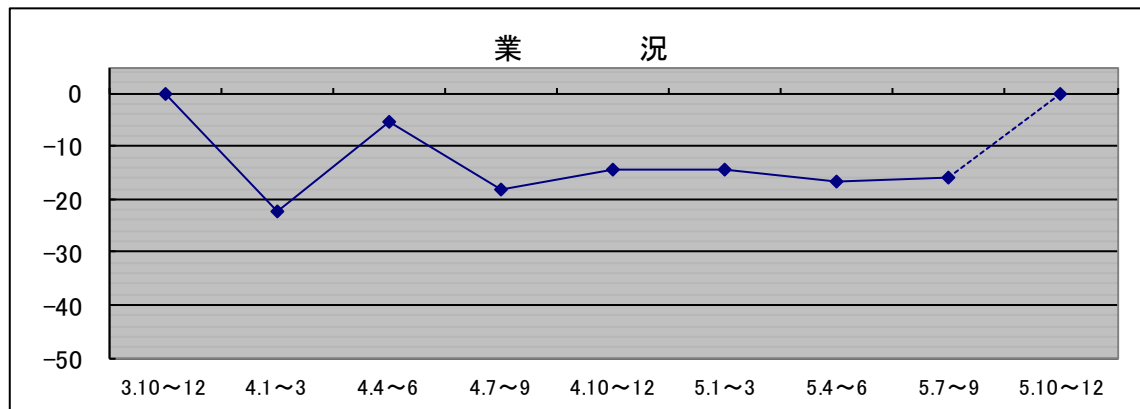
来期（R 5.10月～12月）の業況D.I.は△8.8と改善すると見ている。売上・収益・資金繰りはそれぞれ改善するとの予想であるが、人手と設備はやや悪化を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△13.9	△20.9	△10.8	△20.3	△8.8	△11.4	△11.7	△15.4	△8.8	
売 上	△3.1	△15.0	△2.2	△15.2	2.2	△12.9	6.9	△2.9	4.4	
収 益	△10.8	△17.6	△10.8	△21.7	△5.1	△17.1	△12.4	△18.4	△13.2	
資金繰り	△10.3	△8.0	△7.2	△11.6	△9.6	△10.0	△4.8	△9.6	△8.8	
人 手	△2.6	△3.2	△3.6	△5.1	△8.8	△6.4	△5.5	△6.6	△8.1	
設 備	△3.1	△2.1	△2.2	△3.6	△3.7	△3.6	△4.1	△4.4	△5.1	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	15.5%	提携先を見つける	30.2%
原材料高	13.9%	販路を広げる	20.6%
輸入製品との競争の激化	13.1%	経費を節減する	15.8%

卸売業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）業況D.I.は△15.8（前期△16.7）とほぼ横這いであった。卸売業の業況は未だ低い水準で推移している。売上・収益・在庫が悪化し、資金繰りは横這いであるが、仕入価格は大きく下がった。

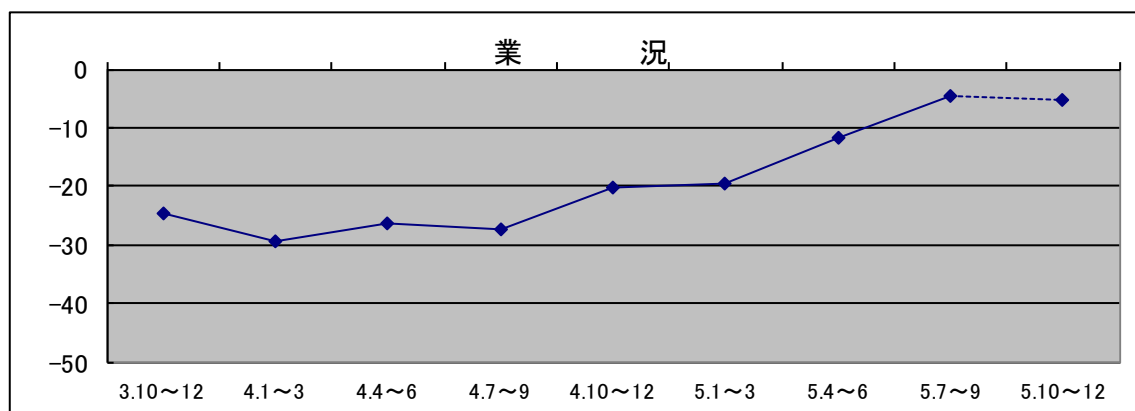
来期（R 5.10月～12月）の卸売業全体の見通しは0.0と8期ぶりにマイナスを脱すると予想している。在庫・資金繰りの横這いと仕入価格の悪化を除き、他の項目については大きく改善を予想している。個人消費が改善傾向にあるが、円安や物価高の影響などは続いており、先行きは不透明である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	0.0	△22.2	△5.3	△18.2	△14.3	△14.3	△16.7	△15.8	0.0
売 上	△3.6	△14.8	15.8	9.1	4.8	9.5	4.2	△15.8	△5.3
収 益	△7.1	△18.5	5.3	△22.7	△14.3	△14.3	△25.0	△31.6	△15.8
仕入価格	25.0	51.9	47.4	45.5	57.1	42.9	50.0	10.5	21.1
在 庫	△7.1	△3.7	0.0	△4.5	△9.5	△9.5	0.0	△5.3	△5.3
資金繰り	△3.6	3.7	△26.3	△18.2	△23.8	△19.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
合理化の不足	23.5%	提携先を見つける	25.5%
売上の停滞・減少	17.6%	販路を広げる	19.6%
同業者間の競争の激化	11.8%	経費を節減する	19.6%

小売業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）の業況D.I.は△4.6（前期△11.8）と改善した。業界内で悪化したとの回答が見られたのは石油・ガソリン、日用雑貨、釣具、写真や婦人服販売などで、円安や原油価格高騰の影響が続いているとみられる。

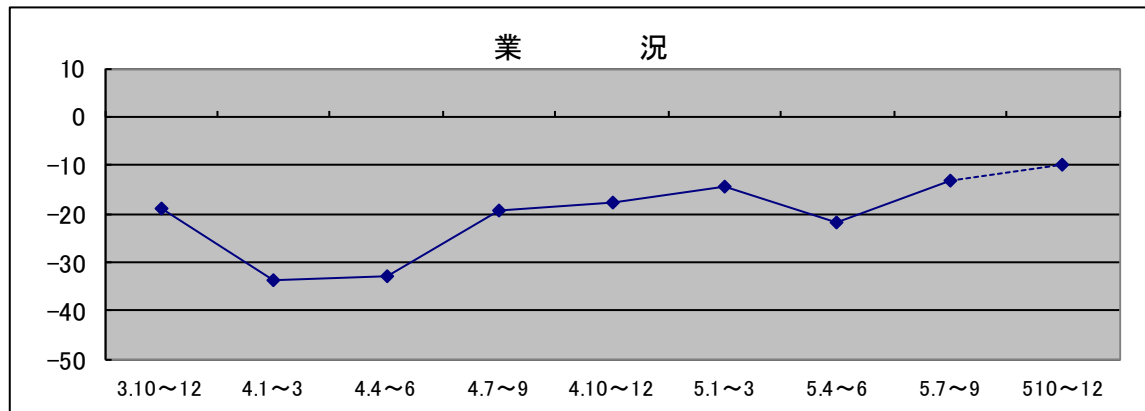
来期（R 5.10月～12月）業況D.I.については△5.4とほぼ横這いを予想しており、販売価格・資金繰りは改善、在庫は横這いの予想。売上・収益については悪化を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△24.5	△29.4	△26.3	△27.5	△20.4	△19.7	△11.8	△4.6	△5.4	
売上	△14.7	△22.6	△19.7	△13.8	△7.3	△11.7	△5.9	11.5	△4.6	
収益	△14.7	△26.0	△27.0	△22.5	△12.4	△15.3	△16.2	0.8	△6.2	
販売価格	7.6	11.9	17.5	28.3	34.3	16.1	27.9	34.6	17.7	
在庫	1.6	1.1	△7.3	0.7	0.7	△5.1	△0.7	1.5	1.5	
資金繰り	△13.0	△11.9	△12.4	△8.7	△11.7	△6.6	△13.2	△9.2	△5.4	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地価の高騰	20.8%	仕入先を開拓・選別する	29.6%
商圈人口の減少	17.0%	経費を節減する	21.6%
売上の停滞・減少	14.2%	宣伝・広告を強化する	16.0%

サービス業



【概 況】

今期（R 5.7～9月）業況D.I.は△13.4（前期△21.8）と改善を示し、他の項目では料金価格以外で全て改善した。コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、それにより開催されるイベント数の増加と県内外からの観光客が増えていることが主な要因である。

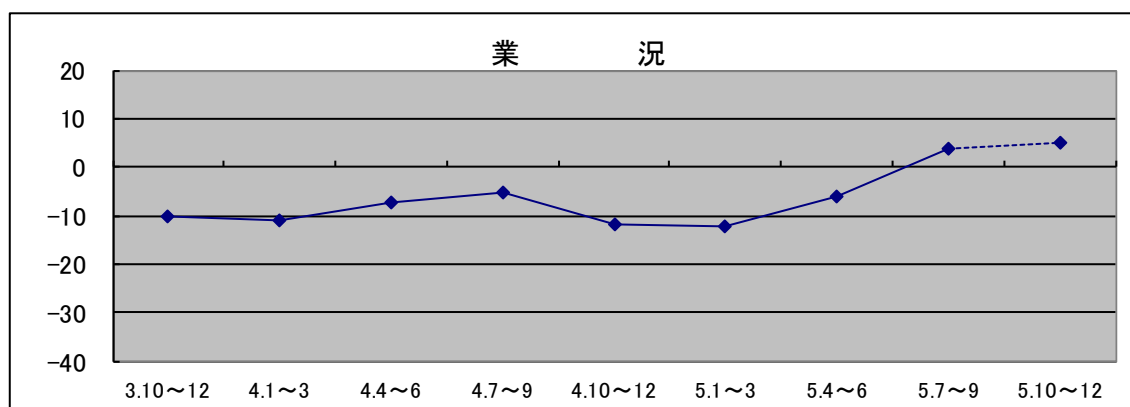
来期（R 5.10月～12月）業況D.I.は△9.8と引き続き改善を予想、他全ての項目についても改善すると予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年			見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
業 況	△19.1	△33.9	△32.9	△19.3	△17.6	△14.3	△21.8	△13.4	△9.8
売 上	△1.7	△26.8	△25.9	△14.5	△5.9	3.6	△23.0	△9.8	0.0
収 益	△2.6	△26.8	△25.9	△9.6	△5.9	3.6	△21.8	△12.2	△2.4
料金価格	0.9	10.7	△4.7	10.8	15.3	8.3	8.0	12.2	6.1
資金繰り	△10.4	△16.1	△21.2	△7.2	△5.9	0.0	△8.0	△6.1	△3.7
設 備	△5.2	△8.9	△5.9	△6.0	△3.5	△2.4	△9.2	△2.5	△1.2

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	15.2%	提携先を見つける	30.0%
利幅の縮小	14.7%	経費を節減する	19.3%
商圈人口の減少	9.6%	販路を広げる	13.5%

建設業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）の業況D.I.は3.9（前期△6.2）と改善を示した。売上・収益・請負価格・資金繰りは改善し、人手のみ悪化した。製材価格はようやくコロナ禍以前の水準に近づいてきており、民間工事や一般住宅の建設は若干増えて改善している。経営上の問題点は順に「人件費以外の経費の増加」、「材料価格の上昇」、「合理化の不足」が並び、経費の節減と価格転嫁が主な課題となっている。

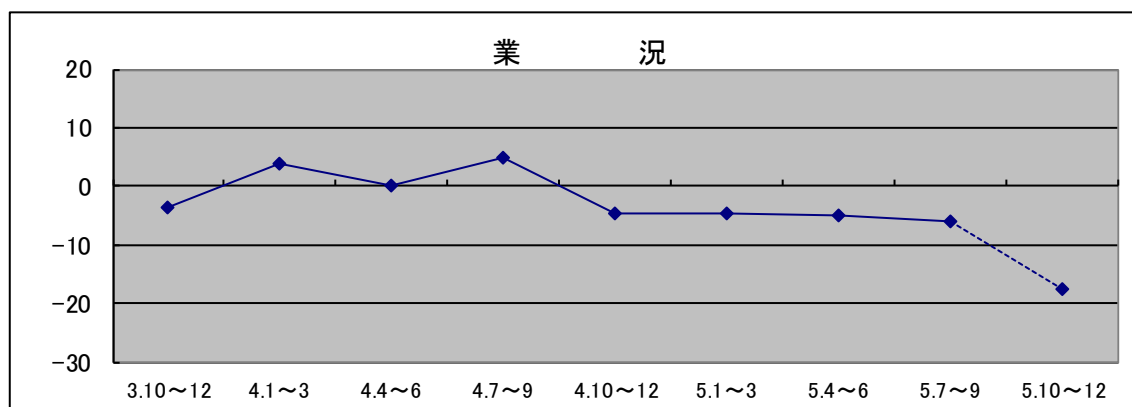
来期（R 5.10月～12月）の業況D.I.は5.2と今期とほぼ横這いの予想であるが、他の項目は全て悪化を予想しており、先行きは不透明である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△10.2	△11.2	△7.5	△5.1	△12.0	△12.2	△6.2	3.9	5.2
売 上	△12.5	△9.0	△1.2	△5.1	△10.8	0.0	△3.8	18.2	9.1
収 益	△12.5	△11.2	△16.2	△10.3	△16.9	△3.7	△15.0	5.2	△6.5
請負価格	△2.3	△5.6	11.2	14.1	26.5	15.9	15.0	18.2	16.9
資金繰り	△8.0	△7.9	△6.2	△7.7	△18.1	△2.4	0.0	5.2	2.6
人 手	△8.0	△12.4	△7.5	△7.7	△14.5	△4.9	△5.0	△10.4	△15.6

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
人件費以外の経費の増加	19.6%	技術力を高める	23.0%
材料価格の上昇	12.1%	経費を節減する	20.4%
合理化の不足	10.3%	情報力を強化する	11.2%

不動産業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）の業況D.I.は△5.9（前期△5.0）とほぼ横這い
を示した。売上・収益・在庫・資金繰りは改善し、販売価格は横這いであった。全
体的に価格は落ち着いてきているが、売れ行きは低調である。

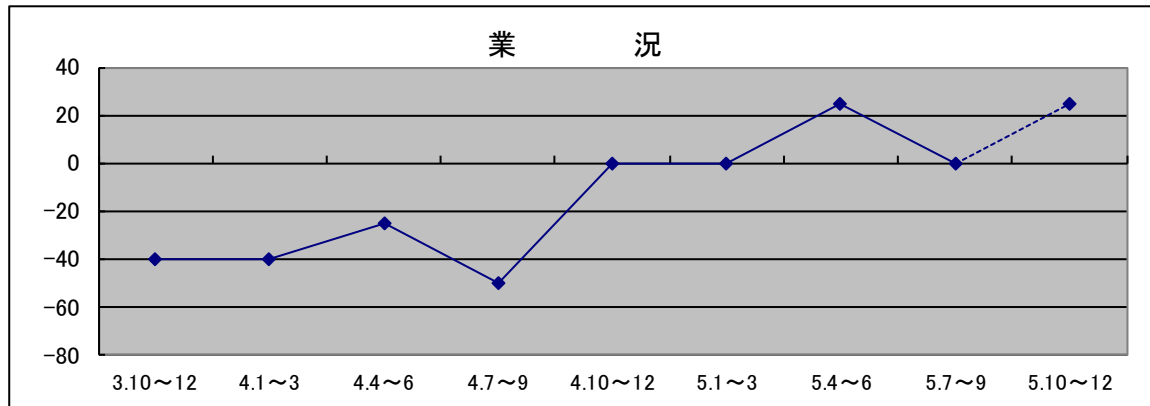
来期（R 5.10月～12月）は人の動きが少ない時期であることから業況D.I.
は△17.6と悪化の予想、売上・収益は改善の予想になっているが、販売価格は
悪化、在庫・資金繰りは横這いの予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△3.8	3.7	0.0	4.8	△4.8	△4.8	△5.0	△5.9	△17.6
売 上	△11.5	△7.4	△10.0	4.8	9.5	△9.5	△25.0	△11.8	△5.9
収 益	△7.7	0.0	10.0	9.5	9.5	0.0	△25.0	△11.8	△5.9
販売価格	0.0	7.4	15.0	19.0	23.8	4.8	0.0	0.0	△5.9
在 庫	0.0	0.0	△15.0	△19.0	△9.5	△4.8	△10.0	△5.9	0.0
資金繰り	△3.8	3.7	△5.0	△19.0	△9.5	0.0	△5.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	19.4%	提携先を見つける	21.3%
同業者間の競争の激化	19.4%	販路を広げる	19.1%
大手企業との競争の激化	16.1%	宣伝・広告を強化する	19.1%

能登地区の縫製業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）の業況D.I.は、0.0と悪化を示し、売上・収益も大幅に悪化した。他の項目は変化がなかったが、2期前の状態に逆戻りした状態である。回復基調を維持してはいるが、ロシアのウクライナ侵攻などの不安定な世界情勢や円安が続いている影響により、順調な改善には至っていない。また人手不足や設備不足は解消できておらず、今後いかにして生産能力を向上させるかが課題となる。

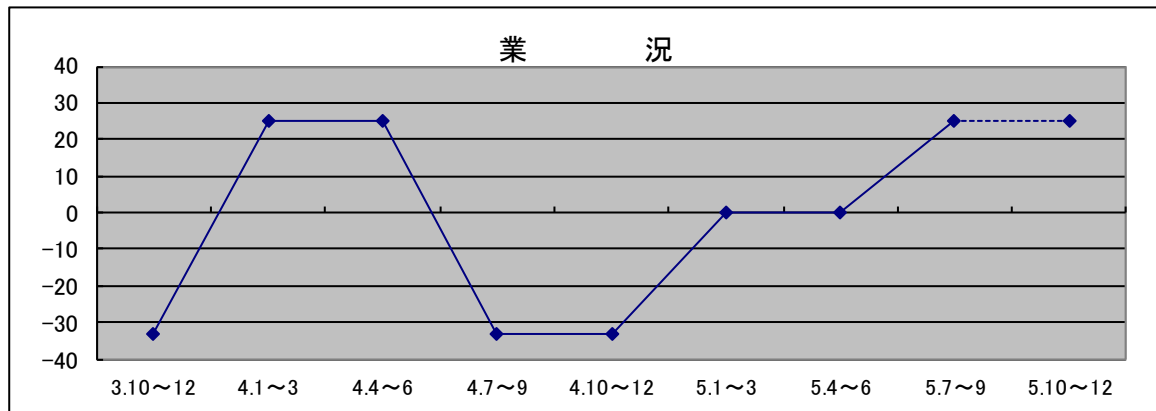
来期（R 5.10月～12月）の業況は改善を予想している。売上はプラスへと転じることを予想しており、収益についても改善の予想。他の項目については横這いを予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△40.0	△40.0	△25.0	△50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	
売 上	△20.0	20.0	25.0	0.0	0.0	△25.0	50.0	△25.0	25.0	
収 益	△20.0	0.0	25.0	△25.0	0.0	△25.0	50.0	△25.0	0.0	
資金繰り	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
人 手	0.0	0.0	△25.0	△25.0	△75.0	△50.0	△50.0	△50.0	△50.0	
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△25.0	△25.0	△25.0	△25.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	18.2%	販路を広げる	20.0%
輸入製品との競争の激化	18.2%	新製品・技術を開発する	20.0%
生産能力の不足	18.2%	経費を節減する	10.0%

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）業況D.I.は、25.0と改善を示した。半導体の需要に対して供給が追いついてきたためである。自動車関連の半導体不足は解消されてきており、自動車生産自体は回復基調を保っている。

今期、業況・売上・収益が大幅に改善しているが、資金繰り・人手・設備は依然低調であり、良い状況であるとは言いがたい。

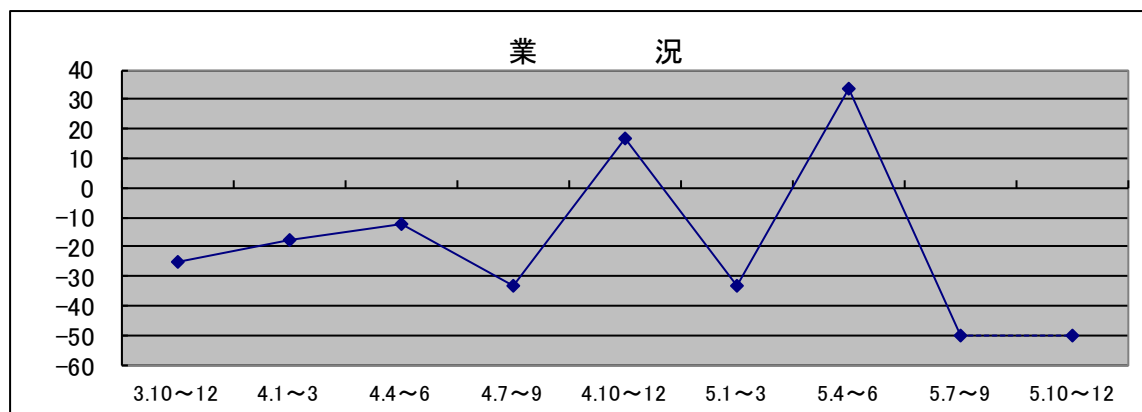
来期（R 5.10月～12月）、業況D.I.は横這いの見込みであり、売上・収益も大幅に改善すると予想。他の項目については横這いになる見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△33.3	0.0	25.0	△33.3	△33.3	0.0	0.0	25.0	25.0	
売 上	0.0	40.0	△50.0	△33.3	△66.7	△50.0	0.0	25.0	0.0	
収 益	△66.7	40.0	△50.0	0.0	△33.3	△25.0	0.0	25.0	0.0	
資金繰り	△33.3	0.0	△50.0	0.0	△33.3	△25.0	△25.0	△25.0	△25.0	
人 手	0.0	△20.0	△25.0	0.0	0.0	0.0	△25.0	△25.0	△25.0	
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	△33.3	△25.0	△25.0	△25.0	△25.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	23.1%	提携先を見つける	38.5%
人手不足	15.4%	経費を節減する	30.8%
売上の停滞・減少	7.7%	情報力を強化する	15.4%

能登地区の漆器業



【概 況】

今期業況D.I.は、△50.0と大幅に悪化した。春先からのイベント開催が一旦落ち着いたことが原因と考えられる。今期は例年悪化する時期であり、人手・設備が横這いである以外は全ての項目で悪化を示した。このところの業況は改善と悪化を繰り返しており、漆器業界としては落ち着いていない。

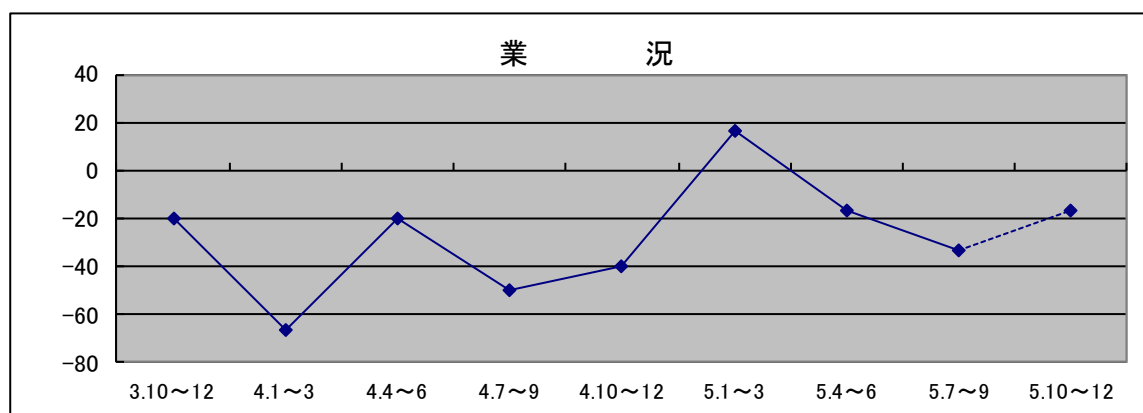
来期（R5.10月～12月）は業況と資金繰り、人手においては横這い、売上・収益は改善で、設備のみ悪化の予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△25.0	△17.6	△12.5	△33.3	16.7	△33.3	33.3	△50.0	△50.0
売 上	△6.2	△17.6	△12.5	△16.7	16.7	△16.7	16.7	△25.0	△12.5
収 益	△12.5	△17.6	△12.5	△33.3	16.7	△16.7	0.0	△25.0	△12.5
資金繰り	△25.0	△5.9	△12.5	△50.0	△33.3	△33.3	0.0	△12.5	△12.5
人 手	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	△16.7	△16.7	0.0	0.0	△12.5

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.9%	提携先を見つける	38.1%
輸入製品との競争の激化	25.9%	販路を広げる	23.8%
地場産業の衰退	11.1%	経費を節減する	19.0%

能登地区の木材業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）業況D.I.は、△33.3と悪化した。収益・設備は改善、売上・資金繰りは横這いで、人手が悪化を示した。木材価格はコロナ禍以前と同水準まで回復してきたが、競合する北米産木材の価格が下がっている影響などもあり、業況は悪化したとの回答が多くみられた。

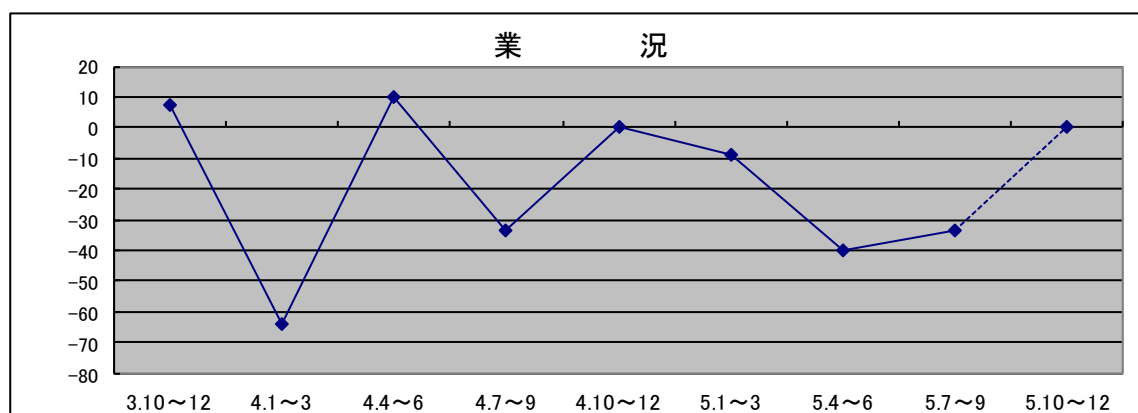
今期（R 5.10月～12月）業況D.I.は、△16.7で改善を予想。売上は改善、収益・資金繰り・人手・設備については横這いを予想。業界全体としては徐々に改善に向かっていくとの見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△20.0	△66.7	△20.0	△50.0	△40.0	16.7	△16.7	△33.3	△16.7
売 上	△60.0	△66.7	△20.0	△37.5	△40.0	16.7	△16.7	△16.7	0.0
収 益	△60.0	△50.0	0.0	△37.5	△40.0	16.7	△16.7	0.0	0.0
資金繰り	△20.0	△33.3	△20.0	△25.0	△20.0	△16.7	0.0	0.0	0.0
人 手	0.0	0.0	0.0	△12.5	0.0	△33.3	0.0	△16.7	△16.7
設 備	0.0	0.0	0.0	△12.5	0.0	0.0	△16.7	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	18.8%	提携先を見つける	35.3%
合理化の不足	18.8%	販路を広げる	17.6%
人手不足	6.3%	経費を削減する	17.6%

能登地区の建具業



【概 況】

今期の業況D.I.は、△33.3とやや改善した。売上は大きく改善し、収益・資金繰りも改善、設備は横這いで人手のみが大きく悪化した。経営上の問題点として「売上の停滞・減少」、「輸入製品との競争の激化」、「原材料高」が同率で並んだ。全体的に改善してきており、建具の需要が伸びているといえよう。

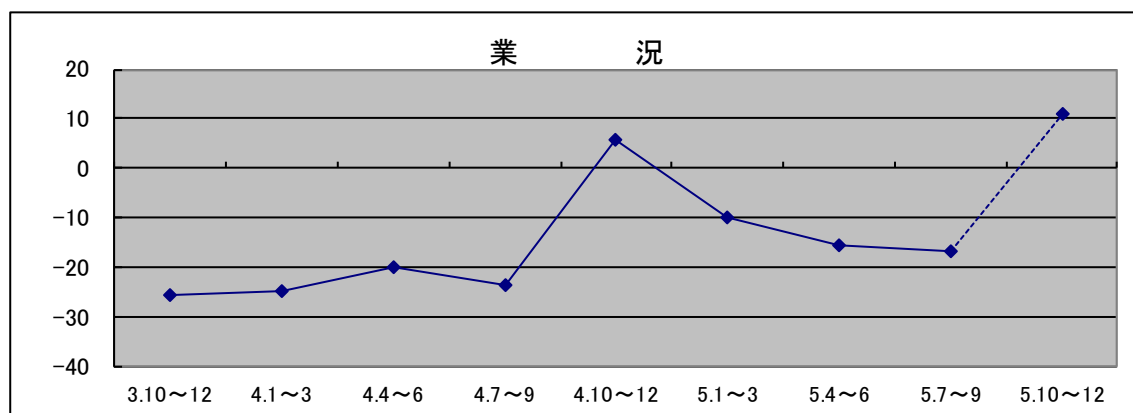
来期（R5.10月～12月）の業況D.I.は0.0と更なる改善を予想しており、他の数値は全て横這いの予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	7.1	△64.3	10.0	△33.3	0.0	△9.1	△40.0	△33.3	0.0
売 上	7.1	△57.1	10.0	△33.3	0.0	△36.4	△30.0	33.3	33.3
収 益	7.1	△64.3	10.0	△33.3	0.0	△27.3	△50.0	△33.3	△33.3
資金繰り	△7.1	0.0	0.0	△22.2	0.0	△18.2	△10.0	0.0	0.0
人 手	△14.3	0.0	0.0	△11.1	0.0	0.0	0.0	△33.3	△33.3
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	18.2%	販路を広げる	20.0%
輸入製品との競争の激化	18.2%	経費を節減する	20.0%
原材料高	18.2%	情報力を強化する	20.0%

能登地区の織布業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）業況D.I.は、△16.7（前期△15.8）とほぼ横這いを示した。売上・収益・設備は悪化したが、資金繰り・人手については改善した。業況は落ち着いてきているが、地価の高騰や輸入製品との競争の激化が伸び悩む原因となっている。

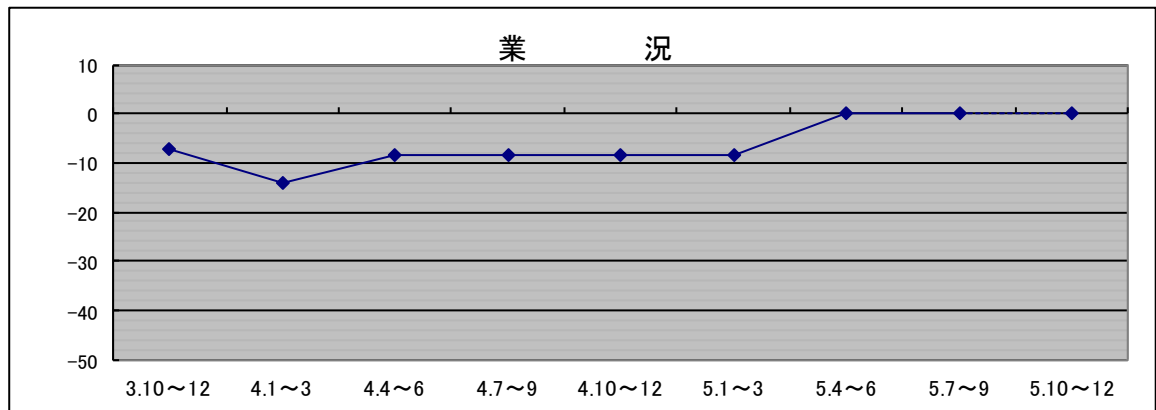
来期（R 5.10月～12月）業況D.I.は、11.1と改善の予想。売上・収益については大幅な改善を予想しており、他の項目については横這いになるとの見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△25.9	△25.0	△20.0	△23.5	5.6	△10.0	△15.8	△16.7	11.1	
売 上	△29.6	△20.8	0.0	△17.6	22.2	0.0	36.8	11.1	55.6	
収 益	△29.6	△8.3	△5.0	△17.6	22.2	0.0	△26.3	△61.1	△22.2	
資金繰り	△14.8	△8.3	△5.0	△17.6	△11.1	△20.0	△15.8	△11.1	△11.1	
人 手	△3.7	△4.2	△10.0	△5.9	△11.1	△15.0	△15.8	△11.1	△11.1	
設 備	0.0	0.0	△5.0	0.0	△5.6	△5.0	0.0	△5.6	△5.6	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地価の高騰	17.2%	販路を広げる	21.7%
売上の停滞・減少	15.6%	提携先を見つける	21.7%
輸入製品との競争の激化	15.6%	情報力を強化する	10.9%

能登地区の繊維・雑品業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）業況D.I.は、0.0と横這いであった。また人手以外全ての項目で横這い、もしくは悪化を示した。

経営上の問題点としては「売上の停滞・減少」と「輸入製品との競争の激化」が同率一位となっており、当面の重点施策は「提携先を見つける」との回答が目立った。

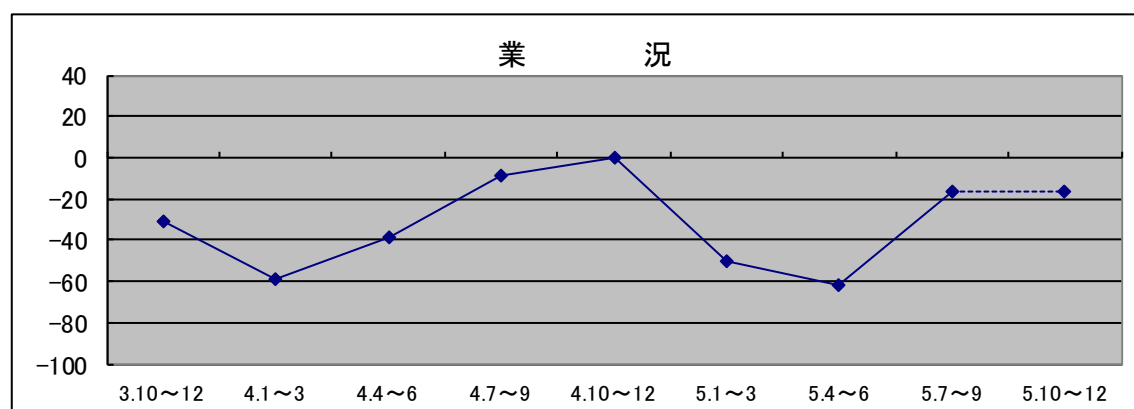
来期（R 5.10月～12月）業況D.I.は、0.0と三期連続で横這いになるとの見通し。売上・資金繰り・人手の項目が悪化の予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△7.1	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3	△8.3	0.0	0.0	0.0
売 上	14.3	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3	△8.3	16.7	9.1	0.0
収 益	14.3	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3	△8.3	16.7	0.0	0.0
資金繰り	△7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	△9.1	△18.2
人 手	0.0	7.1	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	9.1	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.0%	提携先を見つける	28.6%
輸入製品との競争の激化	25.0%	販路を広げる	14.3%
大手企業との競争の激化	16.7%	経費を削減する	14.3%

能登地区の観光業



【概 況】

今期（R 5.7月～9月）業況D.I.は、前期（R 5.4月～6月）の△61.5から△16.7と大幅な改善を示した。新型コロナウイルス感染症の疫学上の分類が2類から5類に引き下げられたことで国内外から観光客が増加し改善に繋がり、他全ての項目においても改善した。

来期（R 5.10月～12月）業況D.I.は、△16.7と横這いを予想している。他の項目においても、料金価格と資金繰りの横這いの予想以外は全て改善するとみており、全体的には改善傾向であるといえる。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年	令和4年				令和5年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△31.2	△58.8	△38.5	△8.3	0.0	△50.0	△61.5	△16.7	△16.7	
売 上	0.0	△41.2	△15.4	25.0	28.6	△14.3	△53.8	△8.3	0.0	
収 益	△12.5	△47.1	△15.4	25.0	7.1	△14.3	△53.8	△16.7	0.0	
料金価格	0.0	11.8	15.4	16.7	14.3	14.3	0.0	8.3	8.3	
資金繰り	△18.8	△17.6	0.0	8.3	0.0	0.0	△15.4	△8.3	△8.3	
設 備	△12.5	△29.4	△15.4	△8.3	△7.1	0.0	△23.1	△8.3	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
材料価格の上昇	14.3%	提携先を見つける	33.3%
技術力の不足	14.3%	経費を節減する	30.0%
売上の停滞・減少	10.7%	宣伝・広告を強化する	16.7%

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
			うち所定外
3年 11月	1.38	142.5	8.9
3年 12月	1.38	142.2	9.2
4年 1月	1.46	132.1	8.3
4年 2月	1.51	133.5	8.7
4年 3月	1.47	137.3	8.8
4年 4月	1.52	145.5	9.6
4年 5月	1.63	135.9	7.4
4年 6月	1.64	143.7	8.6
4年 7月	1.67	142.6	9.5
4年 8月	1.67	136.1	9.2
4年 9月	1.69	138.4	9.8
4年 10月	1.66	140.7	10.5
4年 11月	1.65	142.4	10.4
4年 12月	1.66	140.7	10.2
5年 1月	1.69	130.0	8.8
5年 2月	1.63	136.9	9.5
5年 3月	1.62	139.1	9.6
5年 4月	1.65	145.3	10.4
5年 5月	1.62	134.3	8.9
5年 6月	1.66	144.3	9.2
5年 7月	1.60	141.6	9.8

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	総合	前年同月比
3年 11月	100.1	0.6
3年 12月	100.1	0.6
4年 1月	100.2	0.1
4年 2月	100.8	0.9
4年 3月	101.0	0.8
4年 4月	101.3	2.0
4年 5月	101.6	1.8
4年 6月	101.3	1.6
4年 7月	102.0	2.2
4年 8月	102.5	2.6
4年 9月	102.9	2.7
4年 10月	103.2	3.0
4年 11月	103.4	3.3
4年 12月	103.6	3.5
5年 1月	104.2	4.1
5年 2月	103.4	2.6
5年 3月	103.8	2.8
5年 4月	104.7	3.3
5年 5月	104.7	3.1
5年 6月	105.1	3.8
5年 7月	105.7	3.6
5年 8月	106.2	3.6

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
4年 2月	243	2,172	23,473	310,003
4年 3月	378	4,258	23,495	309,397
4年 4月	208	2,054	23,540	309,746
4年 5月	228	2,331	23,541	309,138
4年 6月	266	2,726	23,543	309,014
4年 7月	246	2,240	23,563	308,535
4年 8月	278	2,803	23,583	307,835
4年 9月	289	2,847	23,610	307,129
4年 10月	260	2,665	23,621	306,843
4年 11月	290	3,231	23,640	305,911
4年 12月	292	3,334	23,702	306,342
5年 1月	244	2,789	23,701	305,239
5年 2月	406	5,684	23,783	305,712
5年 3月	624	10,156	23,868	307,646
5年 4月	527	8,184	23,931	309,840
5年 5月	527	8,548	23,934	310,117
5年 6月	644	9,576	23,902	309,890
5年 7月	597	9,779	23,759	307,736
5年 8月	533	8,061	23,599	304,584
5年 9月	517	8,091	23,610	304,224

資料: 石川県信用保証協会

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
4年 1月	2	950
4年 2月	4	200
4年 3月	7	2,279
4年 4月	3	184
4年 5月	2	432
4年 6月	4	184
4年 7月	3	705
4年 8月	2	1,210
4年 9月	6	3,888
4年 10月	7	585
4年 11月	4	500
4年 12月	5	330
5年 1月	2	100
5年 2月	1	35
5年 3月	6	180
5年 4月	1	150
5年 5月	6	1,212
5年 6月	6	263
5年 7月	3	688
5年 8月	4	111
5年 9月	4	376

資料: ㈱東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
3年 10月	89	18,306	587	60
3年 11月	184	32,438	896	84
3年 12月	86	20,041	491	45
4年 1月	59	12,492	372	36
4年 2月	63	11,935	474	43
4年 3月	83	17,065	569	50
4年 4月	102	18,001	449	44
4年 5月	95	19,046	625	58
4年 6月	105	18,190	458	47
4年 7月	132	23,646	627	47
4年 8月	86	20,462	511	48
4年 9月	84	16,598	591	54
4年 10月	90	21,380	607	55
4年 11月	77	15,421	497	48
4年 12月	89	20,251	378	38
5年 1月	56	12,111	321	30
5年 2月	65	18,303	394	38
5年 3月	69	14,168	488	46
5年 4月	149	53,428	471	45
5年 5月	69	17,883	433	43
5年 6月	78	20,091	494	45
5年 7月	130	40,526	535	50
5年 8月	102	26,888	480	46

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
3年 10月	458	8,538
3年 11月	402	9,874
3年 12月	271	4,870
4年 1月	193	8,467
4年 2月	112	2,584
4年 3月	99	4,381
4年 4月	609	22,419
4年 5月	318	22,299
4年 6月	669	26,992
4年 7月	627	15,305
4年 8月	592	18,876
4年 9月	600	15,943
4年 10月	484	10,848
4年 11月	445	13,413
4年 12月	350	8,601
5年 1月	277	5,754
5年 2月	198	6,782
5年 3月	127	4,460
5年 4月	631	29,793
5年 5月	397	18,605
5年 6月	585	18,695
5年 7月	647	17,007
5年 8月	533	12,647
5年 9月	574	14,626

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
3年 10月	2,035	1,107
3年 11月	2,544	1,448
3年 12月	2,280	1,204
4年 1月	2,206	1,265
4年 2月	2,487	1,526
4年 3月	4,396	2,484
4年 4月	1,955	1,297
4年 5月	1,846	1,089
4年 6月	2,225	1,522
4年 7月	2,418	1,513
4年 8月	2,051	1,266
4年 9月	2,785	1,751
4年 10月	2,464	1,555
4年 11月	2,472	1,785
4年 12月	2,172	1,497
5年 1月	2,367	1,564
5年 2月	2,964	1,805
5年 3月	5,044	2,572
5年 4月	2,416	1,468
5年 5月	2,319	1,382
5年 6月	2,815	1,548
5年 7月	2,834	1,491
5年 8月	2,246	1,473
5年 9月	3,061	2,030

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
3年 11月	59,850	15,400
3年 12月	56,440	10,500
4年 1月	33,904	5,900
4年 2月	14,279	3,800
4年 3月	38,817	8,000
4年 4月	40,914	10,900
4年 5月	47,844	15,300
4年 6月	40,805	12,100
4年 7月	45,894	12,000
4年 8月	73,700	18,700
4年 9月	49,388	14,000
4年 10月	57,583	17,100
4年 11月	63,402	17,100
4年 12月	52,440	10,700
5年 1月	34,945	6,600
5年 2月	37,993	8,100
5年 3月	62,114	14,600
5年 4月	47,156	12,600
5年 5月	50,208	15,900
5年 6月	43,332	11,800
5年 7月	43,195	11,700
5年 8月	77,422	19,600

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

◆ 織物生産高

(千㎡)

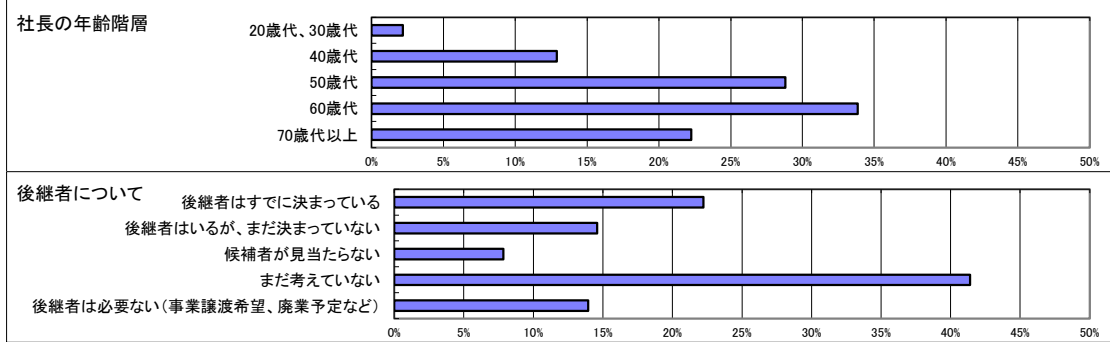
	合計
3年 10月	21,090
3年 11月	20,272
3年 12月	17,924
4年 1月	17,746
4年 2月	18,866
4年 3月	21,378
4年 4月	18,936
4年 5月	18,496
4年 6月	19,974
4年 7月	20,470
4年 8月	21,400
4年 9月	23,537
4年 10月	22,227
4年 11月	24,867
4年 12月	21,583
5年 1月	21,157
5年 2月	21,985
5年 3月	24,333
5年 4月	22,674
5年 5月	22,611
5年 6月	24,053
5年 7月	22,854

資料:石川県企画開発

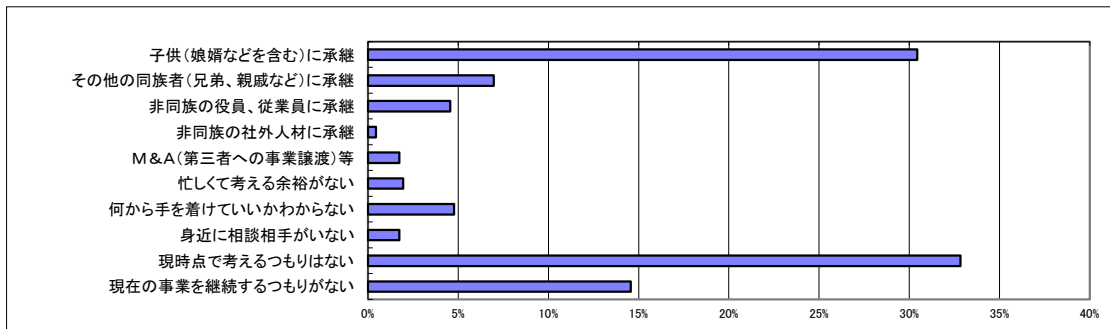
【中小企業の将来を見据えた事業承継について】

特別調査

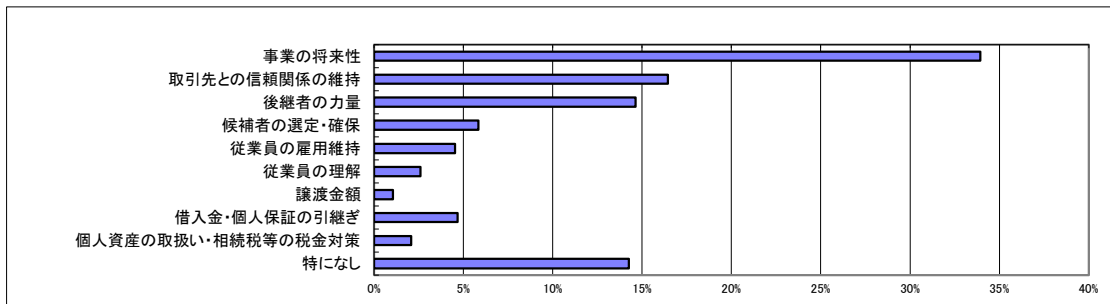
貴社の社長(代表者)の年齢層はいずれに属しますか。1つ選んでお答えください。また、貴社の後継者問題について最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。



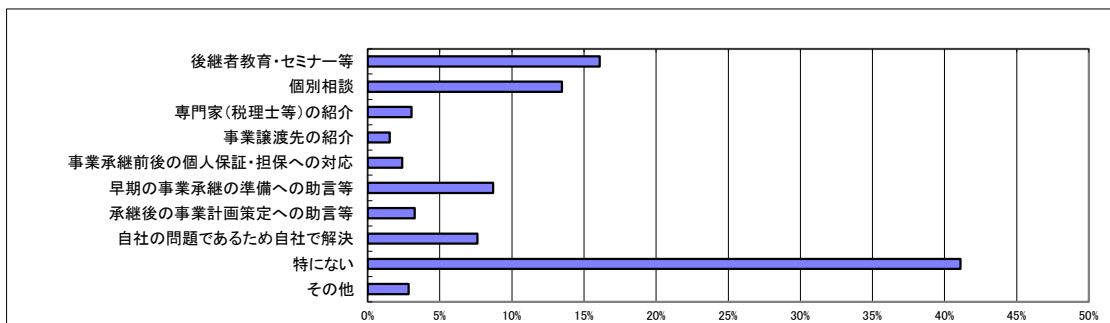
問2. 貴社の現時点における事業承継の考え方について最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。



問3. 貴社では事業承継を行おうとする際に、どのようなことが問題になると考えられますか。3つ以内で選んでお答えください。



問4. 中小企業が円滑に事業承継を進めていく上で、信用金庫には何を期待しますか。信用金庫に対して期待していること、もしくは今後期待したいことについて、最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。



問5. 近年、中小企業におけるM&A(第三者への事業譲渡)が話題になっていますが、M&Aについてどのような認識をお持ちですか。3つ以内で選んでお答えください。

